

## 平成 28 年度国地方創生加速化交付金活用事業の評価について

### 1 国地方創生加速化交付金とは

- ・地方創生加速化交付金は、一億総活躍社会の実現に向けた緊急対応として、「希望を生み出す強い経済」を実現するため、また、「子育て支援」や「安心につながる社会保障」も含め「新・三本の矢」の取組に貢献するため、創設された交付金。
- ・各自治体が策定した地方版総合戦略に基づく取組について、地方創生先行型交付金における特徴的な事例等も参考にしつつ、先駆性を高め、事業の加速化を図ることを目的に実施するもの。
- ・実施に当たっては、具体的な KPI の設定、PDCA サイクルの整備、効果検証が求められており、菊川市総合計画策定委員会において、実施事業について評価をいただく。

### 2 交付金活用事業の事業評価について

#### (1)「事業評価書」について

- ・菊川市は平成 28 年度に 1 事業を実施した(補助率 100%)。
- ・交付金を活用した事業について、平成 28 年度事業実績を成果指標等により評価したもの。
- ・議論していただいた内容については、今年度以降の事業実施に活かしていく。

### 3 菊川市の地方創生加速化交付金事業一覧

No	事業名	実績額 (単位:円)			所管課
		事業費	交付金 充当額	市単独費	
1	農学芸スクール事業 Agri Arts & Science School	36,241,595	36,241,595	0	企画政策課
合 計		36,241,595	36,241,595	0	

No	事業名	所管課
1	農学芸スクール事業 Agri Arts & Science School	企画政策課

## 1 事業内容

総合戦略上の 位置付け	基本目標	1 抜群な子育て環境で家庭が幸せに暮らせるまち
	基本施策	3 シティプロモーションの実施
事業目的・概要	<p>【事業目的】</p> <p>小・中学生のコミュニケーション力や論理的思考力など「生き抜く力」を育むため、菊川市の主幹産業の一つである農業を軸に学校や家庭では体験できない成長機会を提供する。また、まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標である「地方への新しい人の流れをつくる」ことを目的に、首都圏の親子などに菊川市を第2のふるさととして認知、訪問してもらうため、農業体験や地域住民とのふれあいの場を提供する。</p> <p>【事業概要】</p> <p>①カリキュラムの構築</p> <p>参加児童・生徒の「生き抜く力」を育む仕組みを構築するため、大学教授や教育・農業・流通など各種専門家の協力を得てカリキュラムを策定する。</p> <p>②通常企画の実施（通称：菊川ジュニアビレッジ）</p> <p>市内児童・生徒から希望者を募り、拠点農地を中心とした農業体験、加工や流通を含めた各種学習プログラム、販売体験などを実施する。</p> <p>③長期休暇企画の実施</p> <p>主に首都圏在住の児童・生徒親子を対象に、宿泊を伴う農業体験スクールを開催する。実施の際には、参加者に菊川市の魅力が伝わるプログラムを企画する。</p> <p>④法人の立ち上げ準備と広報</p> <p>継続的な人材育成事業とするため、地域で運営する体制を構築するための法人の立ち上げ準備を進める。併せて、事業活動の情報を積極的に首都圏へ発信していく。</p>	
H28 実施内容	<p>①カリキュラムの構築</p> <p>大学教授等専門家の協力を得て、カリキュラム策定委員会を8回開催した。また、先進事例の視察、過去事例の分析、通常企画・長期休暇企画を試行的に実施した。これら28年度事業実績及び成果と課題、さらに各カリキュラム策定委員の助言などを踏まえ、カリキュラム（案）を策定した。</p> <p>②通常企画の実施（通称：菊川ジュニアビレッジ）</p> <p>市内等の小中学生16人（小学生3人、中学生13人）が参加し、生産から商品企画、販売まで、年間を通じて一連の農業ビジネスを体験するプログラムを実施した。平成28年度は、地域課題を解決するための商品開発を目指し、ゴマとハーブを生産。ゴマはゴマ油に、ハーブは菊川産和紅茶とブレンドし、ハーブティとして商品化した。小中学生がネーミング、パッケージデザイン等を手がけた商品は、市内スーパーや県内商業施設、東京都内等で販売し、63万円を売り上げた。</p> <p>③長期休暇企画の実施</p> <p>首都圏等市外の親子などに体験の場や、説明の機会を設け、菊川市及び事業をPRした（夏季休暇企画50人、冬期休暇企画2人、移住セミナー24人）。</p> <p>④法人の立ち上げ準備と広報</p> <p>運営主体となる法人立ち上げ準備、HPやFB、報道機関等を活用した継続的な広報を実施した。</p>	

## 2 交付対象事業における重要業績評価指標（KPI）

本事業終了時の指標値に対し平成 28 年度の実績を評価します。なお、難易度、評価凡例については以下の通りです。

難易度 低：行政が実施する事業の進捗度合いを示す、比較的コントロールしやすい指標  
 中：行政が実施する事業により、ある程度コントロールできる指標  
 高：社会・経済情勢に大きく影響され、行政がコントロールできない(非常にしにくい)指標

評価 △：難航または課題あり ○：概ね順調 ◎：順調

No	重要業績評価指数	指標値 (本事業終了時)	目標値 (数年後)	H28 実績	達成 状況	難易度	H28 評価
①	農学芸スクール参加児童・生徒のうち、将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	100% ※参考：全国平均 小学校 6 年 86.7%、 中学校 3 年 71.4%	100% (H30 年 3 月)	87%	87%	中	△
②	運営主体の NPO または 社団法人化	法人化準備進捗率 30%	法人化 (H31 年 3 月)	30%	100%	低	◎
③	本事業参加者数	長期休暇企画 80 人、通常企画 15 人	長期 120 人 通常 15 人 (H32 年 3 月)	長期 76 人 通常 16 人	長期 95% 通常 106%	低	○
④	本事業による生産物販売品目数	0 品目 実績なし	1 品目以上 (H31 年 3 月)	7 品目	—	低	◎

## 3 事業評価と今後の方向性について

事業評価	<p>指標①について、通常企画（菊川ジュニアビレッジ）参加児童・生徒にアンケート調査を実施した。開始時（7月）に83%であったものが、中間（10月）で55%と下落したが、最終（3月）では87%となった。目標値には達しなかったが、専門家の「本事業による体験が将来に向かって頑張ろうという原動力につながっている」という分析結果もあり、今後に向けて一定の成果があったと考えられる。</p> <p>指標②については、法人化に向けた協議を進め、組織・運営体制（案）が完成したことから進捗率30%とした。今後は、法人化に向けた資金確保等の方策の検討・検証等を実施し法人化を目指す。</p> <p>指標③については、通常企画参加者数は目標の15人を達成した。長期休暇企画（市外からの参加者）については76人（夏季：名古屋・東京から50人、冬季：東京から2人、セミナー：東京等24人）と、目標達成には至らなかったため、市外からの参加者を増やす方策について検討が必要である。</p> <p>指標④については、中学生本気のハーブティ3種類、国産ゴマ油、ゴマのビスコッティ、ゴマのグリッシーニ、ゴマのグラノーラの7品目を商品化し販売した。また、7品目以外にも、地元農家が生産した芽キャベツやトマト等の委託販売も実施した。</p>
今後の方向性	<p>平成 29 年度以降は、地方創生推進交付金の採択を受け、引き続き事業を継続・発展させていく。</p> <p>平成 28 年度事業では、小・中学生の「生き抜く力」を研鑽するカリキュラムの構築に重点を置き、論理的思考力、コミュニケーションスキル、問題解決能力が体得できるプログラム開発のため、検証・検討を重ねた。29 年度事業では、まとめた事業計画骨子に基づいた農業ビジネスの実践を行い、カリキュラムの更なる改善を図る。また、地域で運営する体制を構築するため、農業ビジネスの自走化（年間活動費を稼げる農業）、特別企画（次世代イノベーター育成塾）の確立など、収入源の確保を進める。さらには、事業に参加した市内の児童・生徒が、新たな発想に基づき、マーケティングの視点を取り入れたビジネスプランを作成し、さまざまな関係者を前にプレゼンするなど、地域農業や関連企業と結びつく機会を創出し、地域資源や地域産業の再活性化につなげていく。併せて、「居住地として選ばれるまち」を実現するため、菊川の地域資源を活用した農業体験ツアーへの参加協力や、県外からの参加者への継続的な情報発信など、菊川への愛着を育む仕組みづくりを進めていく。</p>